

## 見習うべきは、環境の質へのこだわりと環境教育の取り組み

1970年以前、スウェーデンの首都ストックホルムでも都市環境に関する意識や関心はたいへん稀薄で、とても環境先進国と呼べるにふさわしいものではなかった。1970年代に入り、市民レベルの取り組みとしてゴミのリサイクルが始められ、1990年なかばには世界に先駆け、商品に対し「生産者責任」を導入「自然循環法」ができる。現在も、環境施策としてたいへん厳しい取り組みが行われているが、なによりも特記すべきことは、環境の質を高めるために調査やチェックを繰り返し、住民自らが行動する、そして学校や企業が、環境教育を積極的に行い、育てているところだと感じた。

### ストックホルム環境プログラム

1999年、環境の質を向上させるために、6ポイントが努力目標として掲げられた。

- ①環境に配慮した効率的な輸送方法について  
市民が公共交通を進んで利用する。約70%の利用率。できる限り自転車や歩くようにする。
- ②安全性の高い製品について  
学校、幼稚園、老人施設などの職員に教育する。エコマークとして、スワン・ツバメ等のマークを入れて消費者に促す。
- ③持続可能なエネルギーの使用  
例えば、バイオガス(生ゴミから生成)を燃料にしたバスがすでに150台程利用されている。
- ④環境にやさしい、都市計画と管理方法
- ⑤環境上効率的な廃棄物処理
  - ・量を減らす
  - ・有害物を減らす
  - ・デポジットシステム
  - ・ゴミ処理方法の開発
- ⑥健康に配慮ある屋内環境  
スウェーデンでは生活時間の90%が屋内であるため建築建材や空調関係機器など厳しく制限がある。



街中のゴミ箱



スワンマークが入った商品

#### デポジットマシン

返却代価  
ペットボトル大 4コナ  
ペットボトル小 1コナ  
缶ビール 2コナ

(1コナ=15円)



#### ストックホルム市庁舎



ノーベル賞の晩餐会会場でもある市庁舎の2F天井近くに、たくさんの人の顔が石像として飾られており、歴代の市長かと聞くと、庁舎建設時の大工さんなど関係者の肖像だと言われた。無機物な庁舎に、なぜかホッとさせる光景だった。

日本で1970年といえば、万国博覧会が開催され、メンテナンス業界にもようやく社会に認知されるときが到来かという時代であった。この30年ほどで日本も環境施策に関して先進国にずいぶん追いついてはいるものの、質を問われるとまだまだの感があるように思う。やはりひとり一人の意識が今後の決め手になりそうだ。

ストックホルム  
スウェーデン